

# おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN



▶ 競技者八〇〇人、ギャラリリー八千人でにぎわった。



ぬくもりを届けたい、手から心へ

▶ 文責で挨拶する加戸愛穂原知事



▲ 大盛況の前夜祭

- 全国生涯学習フェスティバル (広島)
- 野外伝承遊び国際大会 (東京)
- ヒンギス選手をお手玉3段に認定
- 中四国文化の集い(岩国)
- 「お手玉の花」が咲いた木
- ヘルスアートとしてのお手玉
- 平成11年お手玉の会の主な歩み
- 新顧問紹介

特集

第8回  
全国お手玉  
遊び大会

# 「ならまち」が3年連続優勝を飾る

25都道府県と韓国、アメリカから800人

## 第8回全国お手玉遊び大会で交流



▲ならまちわらべうたフェスタチーム



▲少年少女合唱団のかわいい歌声

第8回全国お手玉遊び大会を、お手玉遊び大会実行委員会と日本の心手玉の会の共同主催により、「溜まりを聞けたい。手かろへ。」をテーマに、平成十一年九月十二日(日)、愛媛県新居浜市のリーガロイヤルホテル新居浜で行いました。

今大会には、新しく北海道、熊本県、大分県、宮崎県などの参加で、三都道府県から八〇〇人の選手と、観客のみなさんを合わせた八、〇〇〇人が集まりました。また、加戸守行愛媛県知事が、県知事としては初めて参加くださり、祝辞をいただきました。

競技の方は、団体戦一般の部で「ならまちわらべうたフェスタ」(奈良市)が三年連続優勝を飾ったほか、小学生の部では「サ・バスケットマンズ」(新居浜市)が優勝しました。個人戦一般の部は、京都府の松浦明洋さん、東京都の小田原充志さんが、それぞれ2種目に優勝しました。小学生の部は、奈良市の山本剛菜さんと、徳島県の鴻本千秋さんが優勝しました。

### \*少年少女合唱団の歌声で幕を開ける

大会は、新居浜少年少女合唱団の研究生のみなさんが、浴衣姿で登場し、お手玉をしながら「お手玉歌」の合唱で始まりました。つづいて、今年、新しく入団した研究生と新団員のみなさんによる「わらべうた」に、研究生のみなさんのお手玉を交えて、すばらしい歌声で大会の幕が開かれました。

まず、昨年の団体優勝チーム、ならまちわらべうたフェスタチームから、優勝旗の返還が行われました。

開会式では、表彰を代表して、加戸愛媛県知事から、「お手玉遊びの普及活動は、日本人にとって精神復興のムネツァンズだと考

プロのジャグラー(西洋風規模お手玉師)、マサヒロ水野さんによる「お手玉ショー」と、昨年の大会で大好評だった新登ファミリーによる「ファミリー・コース」で、大いに盛りあげられました。

マサヒロ水野さんは、会場を真つ暗にした中で、明かりの灯ったお手玉4個を自由自在に操る、幻想的な新しい技を演じ、会場からため息と大きな拍手が起りました。

新登ファミリーのコーラスには、かわいい兄妹のはほえましいジュエスマチヤや愛情とどもに、両親との息の合ったハーモニーに、暖かい声援が飛び交いました。

また、昼の休憩時間には、徳島支部のみなさんによる、お手玉をしながらの、「お手玉演舞」(新居浜市)が、情かしい童謡や民謡に合わせて演じられました。今年も、小中学校の女生徒も踊りに加わりました。

### \*個人は松浦さんと小田原さんが優勝

競技は、午前中に個人戦、午後は団体戦が行われました。

個人戦には800人の選手が参加しました。どの種目も昨年より技量が進歩しており、熱戦につく熱戦でなかなか勝負がつきませんでした。今回から、準優勝戦と優勝戦の差別は、お手玉をゆりながら走って技を競うということと、ゆる技を競うことに重点をおきました。

個人戦には800人の選手が参加しました。どの種目も昨年より技量が進歩しており、熱戦につく熱戦でなかなか勝負がつきませんでした。今回から、準優勝戦と優勝戦の差別は、お手玉をゆりながら走って技を競うということと、ゆる技を競うことに重点をおきました。



▲熱戦続く

した。

走らないで、お手玉をゆることを主体にしました。同じ位置で立ったり座ったりしながらゆるとか、前にお手玉を乗せてゆったり、さらには畳の上で、前後左右に数歩ずつ移動しながらゆるなどの方法で順位を決めました。

団体戦は、小学生の部に10チーム、一般の部に70チームが参加して行われました。今回から、同点の場合は、両チームの代表選手同士による、両手4個ゆりで勝敗を決することになりました。また、3位決定戦は行わず、準決勝戦に敗れた2チームを敢闘賞としました。

その結果、入賞者は次のとおりとなりました。

### ◎小学生の部◎

【団体】優勝：サ・バスケットマンズ(新居浜市)、準優勝：かみのまら川之江レディース(川之江市)、敢闘賞：よーちゃん(新居浜市)、まーちゃん(同)

【個人・片手2個ゆり】優勝：山本晴菜(奈良市)、準優勝：関明日香(新居浜市)、敢闘賞：伊藤陽子(同)

【個人・両手3個ゆり】優勝：鴻本千秋(徳島県新居浜市)、準優勝：神野希美(新居浜市)、敢闘賞：曾我部裕人(同)

◎一般の部◎

【団体】優勝：ならまちわらべうたフェスタ(奈良市)、準優勝：熊本火の国(熊本県)、敢闘賞：川東老人センターおじやみの会A(新居浜市)、さくらそう(同)

【個人・片手2個ゆり】優勝：松浦明洋(京都府)、準優勝：殿川早苗(徳島県新居浜市)、敢闘賞：今村シメ子(新居浜市)

【個人・両手3個ゆり】優勝：松浦昭洋(京都府)、準優勝：今村シメ子(新居浜市)、敢闘賞：木村一恵(広島市)

【個人・ジャグリング両手3個】優勝：小田原充志(東京都)、準優勝：木村一恵(広島市)、敢闘賞：久門起子(新居浜市)

【個人・両手4個ゆり】優勝：田原充志(東京都)、準優勝：殿川早苗(徳島県新居浜市)、敢闘賞：米納幸子(熊本県)

参加者は、団体戦の一般の部に初めて宮崎県、熊本県、兵庫県、高根県からのエントリーを含む七〇チーム、小学生の部に神戸市、川之江市、伊予三島市の初参加など一〇チームの約四〇〇人、個人戦には、一般の部と小学生の部を含めて四〇〇人の総勢八〇〇人の参加がありました。

参加地域は、北海道、東京都、大阪府、京都府、そして千葉県、神奈川県、三重県、滋賀県、奈良県、和歌山、兵庫、岡山、広島、鳥取、島根、福岡、大分、熊本、宮崎、鹿児島、高知、香川、愛媛の各県の二五都道府県となり、全国の半分の地域を越えました。

それに加えて今回は、アメリカのサンアイエゴ市、韓国ソウル市など海外からの参加もあり、大きな広がりとなりました。

## 阪神淡路大震災の神戸市からも参加

今回の参加者には、阪神淡路大震災で被害を受けた神戸市からの二つのグループがありました。一つは、神戸支部から初出場した団体戦小学生の部の「神戸お手玉の会」と、一般の部の「神戸お手玉の会」です。もう一つは、一般の部に参加の神戸市真野ふれあい住宅に住むお年寄りの「神戸ふれあい」と「神戸真野」の二チームです。

この真野の二チームは、西条農業高等学校（高石養老校舎）の生活科学科プロジェクト班の生徒さんの招待により参加しました。西条農業高校の生徒さんは、二宮昌子先生の指導のもとお手玉をとっておしてセラピーしよう」と、日常活動を行っています。今年、神戸市の真野ふれあい住宅を訪れ、お年寄りを慰問するとともに、全国お手玉遊び大会に7人をご招待することにしたのです。招待に必要な資金は、生徒さんたちが西条市民に趣旨を説明し、募金活動で集めました。また、交通手段については、日本のお手玉の会神戸支部が準備したバスに相乗りして、このたびの大会出場が実現しました。

# 「いろいろな遊びコーナー」も大人気



▲ 折り紙コーナーも3年目



▲ 南京玉すだれ「そうりゃー」



▲ お手玉遊園地

### \*「いろいろな遊びコーナー」も大人気

会場2階のロビーでは、今年も「いろいろな遊びコーナー」を設けて、「スーパードンボ」、「折り紙」、「竹芸」と「まりつき」、それに「大道芸」などの遊びの指導を行い、充実した内容となり、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

スーパードンボは、香川県国際竹トンボ協会副会長の穴吹成宣（なりよし）さん（香川県豊浜町）の協力で、竹を削り電気がつくなどを使った作り方、飛ばし方の指導が行われて、たくさんのお手玉もあつきました。また、竹芸は、折紙は、3年連続で、伊藤雅治さん（新居浜市）のオリジナル折紙の指導をお願いしました。アルミホイールを使って、カブトムシ、クワガタなど昆虫、スズメ、ツルなど鳥類、コウモリ、ウシ、ウマ、イヌなど動物を、見事に折りあげながら、親子で歓声をあげていました。まりつき、竹返しコーナーは、今年も、田中邦子さん（徳島県大津市・日本のお手玉の会顧問）が、指導しました。田中さんは、「たのしいまりつき いちりト・ラーラ」を出版しており、学童保育を中心に、まりつきの普及活動に取り組んでいます。今回は、昨年指導を受けた飯塚千砂さん（群馬県）が、助手として参加しました。

大道芸では、南京玉すだれと動物風船を、藤井圭治さん、昭子さんご夫妻（福岡市・日本のお手玉の会の会員）が担当されました。終日、大好評で、披露したかった「ガマの油売りの口

### \*「お手玉遊園地」の内容を充実させた

今年初めての風回しは、井形圭一さん（福岡市）が、十数の風を回す技術を披露しながら、基本から指導してくれました。こちらも大変な人気でした。

### \*「お手玉遊園地」の内容を充実させた

お手玉遊びの経験がない人や、心身に障害があるため、競技種目には参加できない人たちが、自由にお手玉遊びを楽しめるコーナーとして設けた「お手玉遊園地」も、年々充実してきました。このコーナーは、おもちゃ図書館さしやポツポ（新居浜市）のみなさんの企画・運営で行われています。

今年は、これまでの手作りおもちゃのほか、手づくりおもちゃコンテストの全国大会で受賞した作品「郵便っこ」や、国際会議で受賞した「シーパラダイス」など、おもちゃ図書館さしやポツポのすばらしい作品が出品され、関心を呼んでいました。

### \*お手玉の作り方教室も親子連れに人気

日本のお手玉の会の会員とボランティアのみなさんによって、お手玉の作り方の指導が行われました。大会の実行委員会が準備した「お手玉キット」を使って、お手玉さんからお年寄りや、親子連れでにぎわいました。

たくさんの方に、ご自分で作ったお手玉をお持ち帰りいただきました。

### \*物産即売コーナーへの出展が増える

日本のお手玉の会の写真絵本「お手玉」やお手玉グッズのほか、「手作り作品」(ちりめん細工)新居浜市、松山市)や「備長炭」(大洲市、土居町)、「全国お手玉遊び大会」の園案入り清酒(新居浜市)などの新しい地元産の物産が登場しました。

また、児童文学作家・大西伝一郎氏の新刊童話「おばあさんのお手玉」(ひくまの出版)が、全国に先駆けて、この大会で販売を開始しました。

ほかに、「創作和紙人形」(新居浜市)の展示や、受付には、お手玉の花をつけた「お手玉の木」が展示され注目を集めました。一階には、お茶席も設けられ、にぎわう会場の中で、落ち着いたひとときを楽しんでいました。

# 前夜祭で参加者同士の交流を深める



▲ マサヒロ水野の妙技



▲ 妙技に見とれる参加者



▲ 技の披露をする参加者



▲ 韓国から参加

## \*今大会にご協力をいただいたみなさん

ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

1. 共 催 新居浜市、新居浜アメニティ倶楽部、社団法人新居浜市観光協会ほか
2. 後 援 愛媛県、社団法人新居浜青年会議所、国際ソロブチミスト新居浜、国際ソロブチミスト新居浜みなみ、住友生命保険相互会社、新居浜市連合婦人会、新居浜ベンチャークラブ、新居浜市公民館連絡協議会、株式会社リーガロイヤルホテル新居浜、その他マスコミ各社
3. 協力団体 実行委員会にご参加いただき運営委員を出していただきました。新居浜市公民館連絡協議会、新居浜市（教育委員会総務課、女性政策課、生涯学習課）、にいはま日本語の会、社団法人新居浜青年会議所、新居浜ベンチャークラブ、有限会社大正ハウジング、株式会社タイワ、国際ソロブチミスト新居浜、国際ソロブチミスト新居浜みなみ、愛媛SGGクラブ新居浜支部、西原町郵便局、住友生命保険相互会社、生活協同組合アイコープ、新居浜アメニティ倶楽部、四国電力株式会社新居浜支店、新居浜市連合婦人会、おもちゃ図書館さしやポップ、新居浜市地域アニメーター連絡協議会、新居浜栄養士会、トムソーヤほかから120人。
4. 協 賛 愛媛銀行ふるさと振興基金、株式会社藤田製作所、株式会社藤田プラント工業、株式会社リーガロイヤルホテル新居浜ほか130件の企業、団体、個人からご協賛をいただきました。（順不同敬称略）

大会前日の九月十一日(土)の夜、日本のお手玉の会本部前の広場で、いも炊きをつつきながらの、くつろいだ雰囲気の前夜祭を開催しました。参加者は、北海道、東京、奈良、兵庫、広島、鳥取、高根、徳島、福岡、熊本、宮崎の各都道府県から一五〇人となり、大いににぎわいました。前夜祭では、本部からお手玉の会の活動状況が報告された後、各支部からは、活動報告を行うとともに、お手玉談義、情報交換、お手玉の特技披露などで交流を深めました。また、西洋風雑誌お手玉師(プロのジャグラー)マサヒロ水野さんの、ジャグリング・ショーも行われ、楽しいひとときを過ごしました。

まなびピア広島で事例報告



全国生涯学習フェスティバル「まなびピア広島99」は、10月7日から11日にかけて、広島県下の5市1地域で行われました。広島大会は、「まなびが創る あらたなかけ橋」をテーマに、中国・四国でははじめて開催されました。日本のお手玉の会は、本部と広島支部の両方で参加しました。本部は、10日の東広島大会「全国生涯学習まちづくりサミット」と、10日と11日、広島県立総合体育館小会議室でのお手玉教室に参加しました。

まちづくりサミットでは、事例報告分科会「まちを愛する市民の学習活動」で、武田哲之会長が、「お手玉が街を愛する」という発表を、中学1年生の本村一恵さん（広島市・琴島）の実技を交えながら行いました。総合体育館小会議室での「世界と日本のお手玉を見て、作って、遊ばせよう」では、たくさんのお手玉が作り、遊び方を練習していました。

また、広島支部ひろしまお手玉の会は、7日から11日までの5日間、広島県立総合体育館周辺の会場で、「創ろう遊びを 見直そう お手玉遊び」をテーマにお手玉教室を開きました。テントの会場で、赤常に暑い日々でしたが、支部のみなさんは、暑さに負けることなく、熱意に満ちたお手玉の普及活動を実践していました。



「お手玉の花」が咲いた木  
自然の花に代わり話題を呼んでいる

このところ、「お手玉の花」が話題になっています。今年の5月、マリンパーク新居浜で行われた「新居浜市地域アニメーター養成講座」で、会場に珍しい花が登場しました。たまつげに似た、小指の爪ほどの小さな緑の葉をつけた「いばた」の木に、直径3cmばかりの、色とりどりのお手玉の花が咲いているのです。

講師は、講演の途中で「たとえば、この花のように……」といいかけて、言葉が途切れました。「え！これはなんですか。お手玉の花が咲いている。これは美しい。さすが、お手玉の街、新居浜にふさわしい花ですね。」と、驚かされるとともに、賞賛されました。

このお手玉の花の咲く木は、会員で紙人形作家の大西妙子さんと、お友達の堀浦清子さん、宮崎あつ子さんの共同製作によるものです。

お手玉の花は、9月の全国お手玉遊び大会の会場にも生けられ、会場を訪れた人々から、「わっ！きれい！」と、ここでも大変な人気を呼びました。（写真）

このお手玉の花を、お店の陳列やカウンターのディスプレイとして、家庭の玄関や卓上の飾りとして広めていってはどうでしょう。

お手玉が日本代表の遊びとして参加  
「人類史上初」の催し野外伝承遊び国際大会



第1回野外伝承遊び国際大会が、社団法人青年交友協会・野外文化研究所の主催で、アメリカ・イギリス、日本など13か国が参加して、平成11年10月31日（日）、東京都渋谷区の代々木公園陸上競技場で開催されました。

日本からは、お手玉、竹こんぼろ、コマ回し、紙飛行機、石あての5つの伝承遊びが出場しましたが、お手玉については、愛媛県からの派遣として日本のお手玉の会が担当し、運営にあたりました。

大会は、秋晴丸のもとで行われ、開会式では、森田勇造大会長（青少年友好協会理事長）から、「外務省、愛媛県、渋谷区、参加各国大使館のご後援により、第1回野外伝承遊び国際大会が実現いたしました。13もの国が「遊び」をテーマに一堂に会したのは、「人類史上初めて」のことで、記念すべき大会であります」とのあいさつがありました。

参加国は、アメリカ、イギリス、エチオピア、中国、ドイツ、トルコ、ロシア、カンボジア、タイ、ウズベキスタン、モンゴル、フィリピン、そして日本の13か国でした。

日本のお手玉の会では、本部からの7人のほか、宮中壽子副会長（東京）、坂井弘孝（サンアイエゴ）顧問夫妻、田中邦子（滋賀）、藤田啓子（長野）の4顧問、徳島支部から2人、札幌、東京、神奈川県、長野、大阪、広島、大分から多数の会員が参加しました。そして、東京支部からは10人の会員が参加して、お手玉の展示、作り方、遊び方の教室を開き、外国人を含め、多くの人にお手玉の指導が行われ、大いに盛り上がりました。

また、お手玉競技大会は、日本、中国、ウズベキスタンなどの国々から参加があり、レベルの高い競技内容となりました。競技は、各部門ごとの個人別に各種目の総合点で順位を決めました。上位入賞者は次のとおりです。

◎小学生の部

（両手2個、片手2個、両手3個）

1位 杉本麻美（厚木市）、2位 伊原兼

吾、3位 井原奈月

◎中学生の部

（片手2個、両手3個、片手3個）

1位 木村一恵（広島市）、2位 柏志

保、3位 エヌーラ

◎一般の部

（片手2個、両手3個、片手3個、両手4個）

1位 三須健太郎（川崎市）、2位 小田

原光宏、3位 山田力志

# トビギス選手をお手玉3段に認定

## 公認お手玉と玉ちゃんTシャツを贈る



テニス界の女王・マルチナ・ヒンギス選手（スペイン）に、平成十一年六月十八日、日本のお手玉の会から代理人をとおして「お手玉三段」の認定証を贈りました。

ヒンギス選手は、昨年（二月五日、東京都体育館（東京））で行われた、東シ・パンパシフィック・オーブン準々決勝戦で、試合中に対戦相手のシュテファイ・クラフ選手（ドイツ）がけがをして治療している間、テニスボール三個を使って観

客にお手玉を披露しました。

このヒンギス選手のお手玉は、両手三個ゆり十五秒間という、日本のお手玉の会の段位認定基準三段に、スピード、高さ、安定度などすべての点で合格している、と判断して認定したものです。

ヒンギス選手は、お手玉を「九歳のころ小学校へ来たサーカス団員に習った」（朝日新聞）と述べています。これからは、テニスボールだけでなく、日本のお手玉を使って、気分転換をしたり、観衆をな

ごませてもらうことを願って、認定証とともに、巾着袋に入った公認お手玉五個と、玉ちゃんTシャツを贈りました。

このことが、六月十七日の朝日新聞「青鉛筆」で報道され、六月十八日には、愛媛新聞をはじめ、時事通信社から全国のマスコミ各社に、テニスボールでお手玉をするヒンギス選手の写真と記事が流され、産経新聞、夕刊フジ、報知新聞など各社が一斉に「ヒンギスお手玉「三段」の披露」と報じられました。

### テレビのワイドショー

これを受けて、六月十八日、日本テレビが「ザ・ワイド」で、フジテレビが「二時のホント」で取りあげました。それぞれ「ヒンギス選手にお手玉「三段」の認定証を贈る」というニュースとともに、ヒンギス選手がテニスボールでお手玉をするビデオを流したり、認定証の写しを見せたり、日本のお手玉の会の段位認定審査の内容や認定状況などをカラフルなパネルで紹介。十九日には、NHK総合テレビの「土曜スタジオパーク」もまた、テレビ東京の「赤恥青恥」クルーは本場で取材し、八月四日に放送。日本テレビは、十月七日の「徳光&所のスポーツえらい人グランプリ」で取りあげました。

また、ラジオでも文化放送（六月二十一日）、東海ラジオ（六月二十四日）が、生電話による取材で放送。テニスの専門誌「テニス・クラシック」の取材も受けました。

今回のヒンギス選手への「お手玉三段」の認定証の贈呈は、広く全国に日本のお手玉の会の存在をPRする結果となりました。

## 「遊びの祭典」でお手玉を紹介

### 岩国の第8回中四国文化の集い

第8回中四国文化の集い「遊びの祭典」が、10月17日、岩国市のシンフォニア岩国で行われ、日本のお手玉の会の会員15名は、愛媛県代表として参加しました。

大会は、「子どもたちと、子ども心を忘れない大人たちに…」を合言葉に、9県から集まった人形劇、お手玉、神楽、紙芝居、けん玉、折り紙などの遊びに、たくさんの親子連れが参加し、いろいろな遊びを体験し、楽しみました。

お手玉の会は、多目的ホールでの「お手玉遊びで広げよう笑顔の輪」のステージと、企画展示ホールでの「見る・作る・遊ぶ」お手玉教室を、披露しました。ステージは、お手玉遊びの実演、名人の技の披露、観衆と一緒にのお手玉遊びを楽しみました。

お手玉教室では、お母さんやお父さんと一緒に、お手玉作りやお手玉遊びに挑戦する、たくさんの子どもたちの姿が見られました。どの顔にも笑顔があふれていました。



# [日本のお手玉の会の主な歩み]

## 平成11年

1月～5月	愛媛県文化活動フォーラム 県民文化会館にて	松山市	9月4日	全国レクリエーション大会	奈良県
	東京倶楽部イベント 下北沢にて		12日	第8回 全国お手玉遊び大会	
	宮崎県高千穂支部 支部大会	宮崎県	15日	尾立の庄 お手玉教室	重信町
	サンディエゴ支部結成の打ち合せ	東京都	18日	NHKラジオ 「土曜サロン四国」	
	宮中雲子 音楽祭	三瓶町	19日	フォスター女史(イギリス)ご来訪	
	熊本支部大会		25日～26日	サンディエゴ民族祭 サンディエゴ	
	西条高校お手玉公開授業	西条市	10月2日	NHKラジオ 「土曜サロン四国」	
6月6日	しまなみスタンプラリー 多々羅夢ステージ		7日～11日	生涯学習フェスティバル	広島県
	20日 サンパーク 視聴覚室	松山市	9日	NHKラジオ 「土曜サロン四国」	
	27日 子どもミュージカル 文化センター		16日	中四国文化のつどい「遊びの祭典」	岩国市
7月5日	「タイズ赤恥青恥」 テレビ東京取材		22日	高齢者対象 健康教室 小富士公民館にて	土居町
	7日 西条ロータリークラブ		24日	えひめ国際まつり'99	松山市
	17日 金栄小学校 夏休みの遊び指導		27日	津島町女性会議 視察研修のためのご来訪	
	22日 愛媛勤労青少年指導者研修		30日～31日	野外伝承遊び国際大会 東京都渋谷区	
	23日 熊本おじゃめ大会	熊本県益城郡	11月7日	玉川町お手玉遊び大会(指導・お手玉の展示)	
	31日 日本母親大会 松山愛媛大学第一体育館	松山市	13日	NHKラジオ 「土曜サロン四国」	
8月8日	小富士公民館 夏休みファミリーゲーム大会		24日	フルブライト・メモリアル基金米国教育者来訪	来訪者21名
	14日 鳥取支部 (展示お手玉の貸出)		25日	US-JAPAN-EX'99参加	ロサンゼルス
	20日 日本PTA全国研究大会		12月2日	日本テレビ「おもいっきりテレビ “ボケ防止”	
		リーガロイヤルホテル新居浜		「なるほどなっとく「お手玉」」放送	
	21日 四国卓球大会交流会		4日	NHKラジオ 「土曜サロン四国」	
		リーガロイヤルホテル新居浜			

## ヘルスアーティストの 「お手玉」

NTT九州病院産婦人科部長

医学博士 中原和彦



最近、いろいろなところへ講演に行きますが、必ずお手玉をもって出かけます。そして、お手玉による健康づくりを、講演の補足としてさせていただきます。参加者が大変喜ばれ、笑いもあり、童心に返ることができます。

ヘルスアーティスト(健康芸術)の面から考えても「お手玉」は、簡便で有効な方法の一つと考えています。

外来診療にも応用しており、私の机の引出しには、お手玉が数個人ついています。時には、患者さんにプレゼントしてあります。

呼吸法とお手玉を組み合わせると、さらにすばらしくなるようです。

きょうの夕方のテレビ番組(KKT)に出演した際にも、老人向けの健康法として、お手玉を紹介しました。おかげさ言えは、地球上の人達がお手玉を楽しく始めたら、健康に、平和に、貢献できるのではないかと、夢が広がります。

お手玉を健康づくりで行う場合には、競技と異なった仕方(熊本ではヘルスアーティストと呼んでいます)を工夫して行っていますので、参考にしていただければ幸いです。

(日本のお手玉の会顧問・熊本支部おじゃめの会会長)



# 日本のお手玉の会 新顧問紹介

ふく みの つよし  
福 留 強

聖徳大学生涯学習研究所長  
児童学科教授  
全国生涯学習まちづくり研究会代表

## 経 歴

国立社会教育研究所教務課長、文部省社会教育官など歴任。  
全国生涯学習フェスティバルの実施や全国生涯学習まちづくり研究会など、生涯学習まちづくりチームの仕掛け人として知られる。関与した市町村は約400。

1993（平成5）年 九州女子大学教授

1994（平成6）年 九州共立大学、九州女子大学  
九州女子短期共同の生涯学習学習研究センター所長

現在、全国の自治体に呼びかけて、まちづくりボランティアとしての「地域アニメーター制度」や「まちづくりコーディネート制度」を提唱。平成10年から現職。

## 著 書

「グループ活動と青少年」（学文社）、「生涯学習とまちづくりQ&A」（ぎょうせい）、「まちをつくるリーダーたち」（教育新聞）、「社会教育の計画とプログラム」（全日本社会教育連合会）、「生涯学習と社会教育委員」（同）、「生涯学習のまち～地域活性化の工夫」（同）、「地域アニメーター」（同）など多数

なか ほん かつ ひこ  
中 原 和 彦（写真7頁）

## 経 歴

1943（昭和18）年9月3日 大分県に生まれる

1968（昭和33）年 熊本大学医学部卒業

1973（昭和48）年 医学博士号取得

1975（昭和50）年 熊本大学産婦人科講師

1983（昭和58）年 NTT九州病院産婦人科部長

## 所属学会

心身相関の医学、全人的健康法への関心から以下の学会に所属している。

日本産婦人科学会、日本心身医学会、日本女性心身医学会、日本東洋医学会、日本行動医学会、日本バイオミュージック学会、日本緩和医療学会、日本サイコオンコロジー学会など

## 健康幸福講座の開催

1986（昭和61）年5月 NTT九州病院内にて毎月1回の健康講座開催

1990（平成2）年4月 健康幸福講座と名称を改め、患者さんから市民へと開放（140回を越す）

## その他

ストレス病の治療に西洋医学と東洋医学を統合した全人的医療（呼吸法、氣功法、自己調整法等）を応用し、大変良好な成績を上げている。最近では、脳の疲労回復、調整ならびに活性化に「お手玉」を応用している。

## 著 書

「生かされて生きる」（海鳥社）「統生かされて生きる」（同）など



## お手玉遊び大会に助成金

愛媛銀行ふるさと振興基金から



財団法人愛媛銀行ふるさと振興基金（理事長・一色哲昭愛媛銀行頭取）から、11年度の助成先として、日本のお手玉の会を選んでいただきました。その伝達式が、7月8日、愛媛銀行新居浜支店でおこなわれました。銀行側からは、後藤益己常務取締役、小野一臣取締役新居浜支店長がご出席され、お手玉の会から武田会長、藤田副会長、土野事務局長が参加し、多額の助成金を受領いたしました。

選考の理由として、全国お手玉遊び大会を毎年1回、新居浜市で開催するとともに、写真絵本「お手玉」を出版するなど、伝承文化の継承に尽力していることがあげられ、ことし9月12日に新居浜市で開催する、「第8回全国お手玉遊び大会」に助成されることになりました。

日本のお手玉の会としては、これまで新居浜市内の23のボランティア団体の協力のもと、愛媛県、新居浜市、

新居浜市内の各企業・団体や、多くの市民の皆様のご理解、ご協力、ご協賛によって、全国お手玉遊び大会を開催してまいりました。

また、日常の「3点セットのドサ回り」（お手玉ミニ博物館・作り方・遊び方教室）、小中高校でのお手玉指導、公民館や福祉施設訪問、講演会の開催、情報誌「おてだま」の発行、写真絵本の出版、5度にわたる海外遠征などを通じて、新居浜発の全国行き・世界行きの「お手玉遊びの普及活動」を行ってまいりましたが、この活動が評価されたことを大変うれしく思います。

こうした評価にこたえるためにも、所期の目的を達成するためにも、お手玉の普及活動を、日本国内はもとより世界に向けて推進していき、心豊かな社会づくりに貢献していきたいと思っております。今後とも、会員の皆様のご協力をお願いいたします。



発行・編集  
日本のお手玉の会 会報編集委員会  
（委員長 森 賀 盾 雄）  
〒792-0811 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14

TEL・FAX/0897-36-0600  
E-mail:tamachan@otedama.shikoku.ne.jp  
ホームページ  
http://www.shikoku.ne.jp/otedama/